

# 第41回バリューゴルフ杯 全道クラブチャンピオンズゴルフトーナメント

## 小笠原一郎が感無量の念願初優勝

### パワーアップと最先端練習で自信

ゴルフモードクローズアップ

# Golf Mode

## CLOSE-UP

[大会成績] (出場56名)

順位	選手名	1R	2R	計
1	小笠原一郎	75	78	153
2	児玉 有史	79	75	154
3	工藤大之進	80	76	156
3	橋立 孝史	78	78	156
3	井上 魁斗	75	81	156
6	高島裕一郎	80	77	157
6	鈴木 秀成	77	80	157
8	高木 大蔵	79	79	158
8	若月 和史	78	80	158
8	小倉 一泰	77	81	158
11	葛西 和光	82	77	159
12	蛭名 和明	81	79	160
13	中村 修一	86	75	161
13	澤田 和伸	81	80	161
15	玉井 竜也	81	82	162
16	若狭 雄二	83	80	163
16	沢里 一樹	83	80	163
16	小林 敏明	78	85	163
19	松坂 昭範	85	79	164
19	小田 桐信	85	79	164
19	高橋 周平	83	81	164
22	円谷 繁	83	82	165
22	長野 等	82	83	165
24	伊藤 篤史	84	82	166
24	深澤 光宏	85	81	166
26	原 弘樹	84	83	167
26	高橋 賢次	85	72	167
26	坂本 博史	85	82	167



新たな歴史を刻む

# 小笠原

# 初V



小笠原一郎選手のティショット



チャンピオンプレザー授与。



大会表彰式。



開催コースの札幌リージェントGC。

40年の歴史を刻んできた伝統の大会「道新スポーツ杯全道クラブチャンピオンズゴルフトーナメント」第41回目となる今大会からは(株)バリューゴルフが主催となり「バリューゴルフ杯」として新たな一歩を踏み出した。

表彰式では、冒頭に主催者の(株)バリューゴルフ代表取締役・水口通夫氏が出場者、関係各位に御礼と感謝の挨拶。伝統の大会を引き継ぎ、新たなスタートへの思いを述べた。

そんな注目の大会を制したのは、これまで善戦しながら何度も悔しい思いをしてきた小笠原一郎(42)



優勝・小笠原一郎(左)と(株)バリューゴルフ・水口通夫社長(右)

第41回目を迎え、バリューゴルフ杯に変わり、さらにタフなコースに生まれ変わった「全道クラブチャンピオンズゴルフトーナメント」。新たな北海道のアマチュアナンバーワンを決定する大会として、さらなる注目を集めることは勿論、ここからどんなレジエントゴルファーたちが生まれてくるのか、新たなチャンピオンストーリーの始まりに期待したい。

小樽CC)。小笠原は二度は全道タイトルを獲得してみただけだったので感無量です」とようやく叶った喜びを囁みしめた。

初日は39・36の75で首位タイと好スタート。最終日は「ベストを尽くそう」と悔いの無いプレーを心掛けて臨んだ。前半は36と順調な滑り出しだったが、後半は「転。やや勝ちを意識したのか「負けたかと思つた」と振り返るほど苦しい展開になった。それでも最後まで耐え1打差で振り切ったのは、まさに「今度こそ」という強い思いだけだったに違いない。勝因は「パワーアップと弾道の安定感が大きい」と小笠原。冬は週2〜3回ペースでジムに通い、イギリスゴルフのトラックマンで「入射角が格段に安定した」と言う練習と鍛錬はやはり嘘をつかない。殻を破った小笠原一郎のこれからは本当に楽しみになってきた。

以前にも増して名物の旧コースがよりタフになった印象を受けた今大会。それもそのはず、今年の全日本大学ゴルフスパーリーグ開催においてティー増設などのコース改修を実施。距離が長くなり、今までは違うスパーコースへと変わっていた。さらには、いつも以上に速いグリーン、厳しいピン位置に誰もが驚いたことだろう。それでも優勝した小笠原は「硬さと速さ、ピン位置、乗せる所を間違えた時の大変さ、3・4パットの洗礼、このグリーンでやれるのが楽しい」とコースへの賛辞を呈する。